

令和5年度第1回地域包括ケアシステム検討委員会（報告）

日時 令和5年7月25日（火）

10:00～11:30

場所 高梁市役所 2階 保健センター

欠席 石村委員、加藤委員、後内委員、
中村委員

1 開 会（進行：森本）（写真：助實）
2年任期。今年度、オブザーバーの岡山県社会福祉協議会 濱田美沙子氏 に代わり 島田
二千鶴氏 に変更があった

2 あいさつ（山根委員長）
高齢者・障害者が住みやすい社会となるよう活発な意見交換をお願いしたい。

3 協議事項（議事進行：山根委員長）
(1) 今年度「移動手段」のテーマ選定の背景や今後の取り組みについて（山本）
P7 説明

(2) 市民課から公共交通機関における情報提供（市民課：難波）
高齢者にとっても公平に利用できるものとして公共交通機関がある。
現状や今後の計画について説明をする。

資料～P8 までについて説明

質疑応答

Q. バス利用が少なくなった理由

A. 備北バス報告により、1億4000万の補助金を払っている。他の事業と合わせると2億強
の支払いがある。要望や減便については公共交通会議で検討している。

Q. バス利用者が少なくなったのは人口減少のためか？

A. 備北バスが年2回調査を行っている。具体的な理由の報告はないが、利用者の中心が
高校生であり、他は小中学生のスクールバス化している。

Q. 市長への要望の機会があったが、市の方向性によって地域の要望を出していくようにも
なっている。

A. グリーンモビリティは昨年試車。季節や運転手の問題などある。巨瀬では電気自動車を
市が購入して通いの場への送迎をしている。それぞれ課題や使い方があり、そこを踏ま
えて検討していく必要がある。

(3) 高梁市の現状あるサービスの説明
・高梁市福祉移送サービスについて（社会福祉協議会：村上）
資料P9～10、福祉移送サービス事業について説明

- ・通所付添サポート事業について （惣田）
資料P 11～13説明

(4) グループワーク （進行：山本）

テーマ「高梁市の高齢者の移動支援について困りごと」

<1グループ>

① 高梁市の高齢者が困っていると感じる事

- ・通院、買い物に困っている （高倉等）
- ・移動販売が少ない
- ・バス停まで遠い、足がない。坂道多い。
- ・移送サービスが3日前からなので、急な用事に使えない。（意見として多い）
予約を忘れる。
- ・以前はバスがフリー乗降で便利だった。バス停までが遠い。バスステップが乗りにくい。
- ・タクシー券は助かっている→市民センターまで取りに行くのが大変
- ・近所の人が高齢者の送迎もしている。送迎する人も高齢で課題あり。
- ・支援者が介入していない人が困っているのでは？→だとすると困り感が見えにくい
- ・普段は公共交通が使えても、セニアカーだと雨の日など困ることがある

② 上手くいっている事、工夫していること

- ・地域での助け合い ミニデイ送迎→ボランティア
- ・免許返納後の助成券ありがたい（あいカード？）
- ・移動販売の利用→セニアカーで集まる
- ・乗合タクシーが次の受診予定を聞いてくれる。 （川上、備中）
乗合タクシーは前日にTELを入れてくれる。
- ・乗合タクシーは玄関まで荷物を運んでくれたり、客が居なければ買い物へ寄ってくれる
など融通が利きやすい
- ・ふれあいタクシーは浸透している
- ・地域限定の公共交通機関（時刻表）をつくって配布する（市民課）

③ こういうサービスがあったらよいと思うこと

- ・移動手段について視覚的にわかりやすいパンフレット、貼れるもの
- ・高齢者へ情報が届いていないのではないかな？情報が入るいい方法はないか
- ・意外と自分は何を使えるか知らない。地域ごとの交通、移動情報のわかるものがほしい。
- ・病院で受診予約が入ったら、すぐ予約してくれる予約代行や補助。
- ・バスの段差解消。診療に合わせた交通手段の対応。
- ・受診にタクシーを頼めない人も多い。所得の差に対応したサービス。
- ・移送サービスは、今日必要なサービスや体調不良で受診したいに対応できない。
今日必要なサービスに対応できる移動手段がない。
- ・免許返納時にサービス紹介

*まとめ (山根委員長)

5. その他 (助實)

- ・ ボランティア養成講座
- ・ 家族介護者交流事業
- ・ 認知症サポーター養成講座

6. 閉会 (村上副委員長)